

2011年バックスマンドリーノは結成20周年!! ゲストを迎えてパワフルでスペシャルな音楽をお届けします。

「卒業してからも一緒に弾きたい!」の声の下に1991年10月、関マン(全国学生マンドリン連盟関東支部)に加盟する大学マンドリンクラブの卒業生を中心としたメンバーにより結成された社会人マンドリンオーケストラ『バックスマンドリーノ』。毎年8月に定期演奏会を開催し、昨年には20回目の記念演奏会を開催。マンドリンオーケストラでは国内で3度目の演奏となる、全4楽章にわたるクラシック交響曲の大曲、ドヴォルザーク作曲の『新世界より』を楽団オリジナル編曲にて演奏した。結成当初は50余名だった楽団員数も100名を超え、国内でも有数の大編成マンドリンオーケストラへと躍進を果たした。

演奏曲は、日本含め世界各国の作曲家によりマンドリンオーケストラのために作られた新旧の楽曲のほか、クラシック有名曲のマンドリンオーケストラ編曲や、誰もが一度は耳にしたことのあるジャンルにとらわれない名曲のメドレーなど多岐にわたり、『マンドリンを聴くのが初めてのお客様にも存分に楽しんで聴いていただける選曲』をモットーとしている。

なお、楽団名の『バックス』は、ギリシャ神話の『お酒の神様』に由来しており、練習後に居酒屋にて毎回行われる飲み会のパワーは練習時に発揮されるパワーにも匹敵する。演奏会でステージに掲げられる団旗は、バックスの『聖杯』をデザインしたものである。『みんなで楽しく弾き、みんなで楽しく飲む!』これもまた、結成から20年経った今も変わらぬバックスに脈々と続くモットーである。

これからもバックスは、『よりみんなで楽しく弾き、みんなで楽しく飲める楽団』として、また、『よりお客様に音楽を、マンドリンを、楽しんでいただける楽団』として、一層の飛躍を目指していく。そんなバックスの未来に『乾杯!』

マリオネット【第2部 スペシャルゲスト】

日本におけるポルトガルギターのパイオニア・湯浅隆と、マンドリン奏者・吉田剛士によるアコースティックユニット。ポルトガルギターやマンドリョートなど演奏者の少ない楽器を取り上げ、ギターやマンドリンを合わせて独特のオリジナル音楽の創作を中心に、フアドやポピュラー音楽まで幅広い音楽活動を行なっている。映画音楽(『パッチンして!おばあちゃん』『エイジアン・ブルー〜浮島丸サコン』)、TVドラマ・ドキュメンタリー(『長崎ぶらぶら節』『皆なき者』他)、TV番組テーマ曲(『土曜元氣市』『2時ドッキリ!』)、CM音楽(『沢の鶴』『日本経済新聞』他)、バレエ・演劇などの劇中音楽を数多く担当。また、俳優・常田富士男、女優・日色ともゑを始め、バントマイム・清水きよし、歌手・リリィ、石川さゆり、渡辺真知子、グラシエラ・スサーナ、中国古箏・伍芳との共演など、様々な分野とジョイントして精力的に活躍。95年のデビューCD『ぼるとがる幻想』は3万枚のセールスを突破し、インストゥルメンタルとしては異例のヒットを記録。以降、計13枚のアルバムを発表。また『徹子の部屋』『スタジオパークからこんにちは』を始め、多数のテレビ・ラジオに出演すると共に、BGMとしても数多く使われている。1998年に開催されたリスボン国際博覧会 EXPO'98の日本館主催ジャパンデーのイベントに日本代表で出演。また、同博覧会の『Festival de Guitarra Portuguesa na Expo'98』に日本人では唯一招待されるなど、国際舞台も含めて益々の活躍が期待されている。



湯浅 隆 Takashi Yuasa (ポルトガルギター奏者)
14才でギターを始め、日本ギター音楽学校を経てクラシックギターを小野剛蔵氏に師事。フォーク、ロック、ブルース、ラテンと幅広い活動を続けるうち、ポルトガルギターと出会う。'87年、ポルトガルに渡り、アントニオ・シャイニョ氏、ルイス・ピニェイロ氏に師事、のち帰国。日本におけるポルトガルギターのパイオニアとして、フアドにとどまらない独自の境地を確立、その音楽世界は本場ポルトガルでも高く評価されている。現在、吉田剛士とのアコースティックユニット《マリオネット》として、オリジナル音楽の創作を中心に音楽活動を行なう傍ら、近年は作詞・作曲家として歌手への楽曲提供(グラシエラ・スサーナ『唐街雨情』他)も積極的に行っている。2010年よりマカオ観光局音楽大使。



吉田 剛士 Goshi Yoshida (マンドリン奏者)
15才でマンドリンを始め、'80年~'84年、川口雅行氏に師事。'84年、渡西独。国立ウッパタール音楽大学にてマーガ・ヴィルデン・ヒュスゲン女史に師事。'87年、同校演奏家資格試験を最高点で卒業、同年帰国。'88年、NHK洋楽オーディション合格。湯浅隆とのアコースティックユニット《マリオネット》としての活動以外にクラシックマンドリン奏者としても活躍、高い評価を得ている。2000年11月、初のソロCD『イタリアン・センチメント』を発表。2006年には、『マリオネット』の楽曲を専門に演奏する100名の団員による《マリオネット・マンドリンオーケストラ》を組織、新たなマンドリン音楽の確立に力を注いでいる。日本で唯一のマンドリン専門誌『奏でる!マンドリン』の監修も務める。

マンドリン・マンドリンオーケストラとは?



「マンドリン」(英:Mandolin 伊:Mandolino)は、19世紀中頃にイタリアで生まれた撥弦楽器(はつげんがっき。弦をはじいて音を出す楽器)です。日本に伝来したのは、ほんの100年ほど前ですが、現在東京都内だけでも軽く100団体以上の学生、社会人のマンドリン演奏団体があり、日本全国いたるところで演奏活動を行っています。プロとして活躍中の演奏家やユニットも数多く、今や日本は生まれ故郷のイタリアを抜き世界一の愛好者人口を持つ「マンドリン大国」なのです。マンドリンの胴の形は左の写真のようにビワを半分にしたような丸い形で、全長は60センチちょっと。弦はスチール製で8弦ですが、同じ調弦の2弦を1対として弾きます。調弦は低い方からG(ソ)ーD(レ)ーA(ラ)ーE(ミ)とヴァイオリンと同じですが、指板にはギターのようにフレットがあり、弓ではなくべつ甲やナイロン、プラスチックなどの材質の「ピック」を使って、弦をはじく「ピッキング」、マンドリンの特徴ともいえるピックの急速な上下運動によって弦をはじき続ける「トレモロ」といった奏法で演奏します。

現在のマンドリンオーケストラで用いられているマンドリン属の楽器はマンドリンの他に、マンドリンより1オクターブ低い音域の「マンドラ」、ヴァイオリン属のチェロと同じ音域の「マンロンチェロ」。これらに、主にリズムパートを担当する「クラシックギター」、主に低音域を担当する「コントラバス」が加わります。また、演奏曲によっては、「フルート」や「クラリネット」などの管楽器、「ティンパニー」や「バスドラム」「シンバル」などの打楽器、「ピアノ」なども加わります。

このようにマンドリン属の楽器を始め、様々な楽器によって一つの音楽を織り成すマンドリンオーケストラは、シンフォニーオーケストラやウインドオーケストラにも匹敵する表現力や可能性を持っています。ぜひマンドリンオーケストラの演奏会に足を運んでいただき、「マンドリンの世界」を見て、聴いてみてください!

団員募集

バックスマンドリーノでは団員を募集しています。一緒に演奏してみたい方、ぜひご連絡下さい。学生の方は会費無料、新人の方は初回の会費半額です。



演奏会・入団希望お問い合わせ先

岡崎 正和(おかざき まさかず) 090-7420-2162

taken@mars.dti.ne.jp (公式ホームページ管理人)

会場 かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

京成線「青砥駅」より
徒歩5分



当団指揮者による音楽への情熱を綴ったブログや練習・イベントの様子がわかる団員ブログが日々更新中!



バックスマンドリーノ
公式ホームページ

<http://bacchus-mand.web.infoseek.co.jp/>